

戦後80年 大戦の中の長万部展



第二次世界大戦終戦から80年が経つ今年、当時の長万部町に関する資料を展示いたします。

実は当時、長万部町も直接空襲の被害を受けています。その時の様子が資料に残されており、機銃で撃ち込まれた弾丸も残されています。

長万部町の歴史に触れ、身近なところから戦争について考える機会となれば幸いです。

※本企画展は、戦時中の資料を展示・紹介するものであり、戦争に関する特定の思想を強要・誘導するものではありません。

場所 長万部町学習文化センター ロビー

期間 令和7年8月2日(土)～8月15日(金)

主催 長万部町教育委員会



展示予定品
『12.7mm機関銃銃弾』
及び
『日本軍三八式歩兵銃の銃弾』

「朝にここ八時ちょっと前かな飛行機飛んできたのは。それでも瀬棚の方にまっすぐ入って行ったからね。まああれだけ飛行機いれば、たくさんいるなーと思って見ていたらすぐ引き返して来て、ここにグーと高度下げて来たもなー。それで長万部の所、バリバリーと。アアこれは、大変だとみんなすぐ笹原に逃げたんだ。」
『古老談話』No 4の5(戦争) 項目「空襲」より(原文ママ)

学習文化センターの斜向かいにあります、町民センターでは、本企画展で展示していない戦時中の資料がございます。また、その隣(飯成神社側)には、平和祈念館という、工藤豊吉氏のコレクションを展示する施設があります。平和祈念館には、本郷新の「嵐の中の母子像」や丸木夫妻の「原爆の図」などが展示してあります。

併せてご覧ください。